

# 清水っ子

佐世保市立清水小学校 学校だより  
第4号 令和6年7月4日(木)

文責 井上 文典

～本物の笑顔が輝く清水小～

7月に入りました。今年は梅雨入りが遅れ、まだまだ雨の日が続くようです。子どもたちは室内で工夫しながら笑顔で過ごしています。1学期もまとめの時期になっています。「漢字の50問テスト頑張らんば！」などの声も聞こえています。1学期の学びの成果を子どもたち自身が実感できる7月にしていきたいと思っています。



## 自分の学びを振り返るときに大切にしたいキーワード…「のに」を「ので」へ

テストを返却するとき（特に学期末のテスト）に「自分の学習を振り返りましょう」と教師は子どもたちに声をかけます。すると「頑張ったのに（のに）良くなかった」というような声を出している子がいます。さて、この言葉には、テストの結果をどのように受け止めれば、成長や改善につながるのかを考えさせられるヒントがあります。

人の思考は、ちょっとした言葉や文字でも変容するのではないかと考えています。その一つが「のに」と「ので」です。そう考えさせられたのが「『のに』がつくと愚痴がでる」と表現した、いのちの詩人といわれる相田みつをさんの詩です。（生活の中では「がんばったのに…」と、ついつい「のに」と言ってしまうね）

勉強も運動も「がんばったのに・・・」と努力が報われなかったことだけに焦点をあてて終わってはいけません。向上はありません。失敗したとき、上手くいかなかったときこそ「あと少し〇〇の工夫が足りなかったので」「あと少し〇〇の練習が足りなかったので」と「ので」で根拠を明確にすることが工夫や努力することのポイントとなり、子どもたちの意識が変わることにつながっていると考えています。

学習指導要領では、すべての教科において「見方・考え方ははたらかせ」と記されています。これは、これから予測が難しい時代を生きる子どもたちにとって、人生を切り拓いていく重要なキーワードだと考えています。そして、普段の学習や生活のなかでは「のに」ではなく「ので」で考えていく思考の習慣が大切なのではないかと考えています。

あと少しで夏休みになります。1学期の学習について建設的に振り返り、夏休みの自発的な学習につなげていきたいと思っています。



～本物の笑顔のために～

**「ごめんなさい」が言える子が育っています**

「ごめんなさい」の一言に、その人の心の柔らかさと強さを感じます。

「ごめんなさい」はとってもシンプルな言葉ですが、心のシーソーが必要な言葉です。

叱られる経験と同じように。反省とともに許してもらった経験はとっても大切です。

「ごめんなさい」が言える風土、環境も大切にしたいと思っています。

1学期は、「ごめんなさい」を言えた子たちの本物の笑顔に出会えました。これも校長の宝物です。

## 「きこえとことば集会」を行いました

清水小学校には「きこえとことばの教室」（通級教室）があります。

全校児童が体育館に一堂に会し、本校の「きこえとことばの教室」の内容や通級してきている子どもたちの願いや思いを知る大変良い時間となりました。

子どもたちの感想では「きこえとことばの教室でどんな勉強をしているのかがよくわかりました。言葉の出し方など教えてもらったことを自分も生かして行きたいです」などの言葉もありました。



## 学校評議員会「清水っ子を育てる会」を6月20日（木）に実施しました

学校と地域が共に、教育を考えるとという視点で協議をしました。レジュメの一部を紹介します。

### 「どうせ・・・」とつぶやかない子どもを育てたい

#### 1 はじめに

予測困難な時代。清水小は、一人一人の「本物の笑顔」をめざし、全職員で、工夫しながら教育活動を進めている。

#### 2 「本物の笑顔」は日々の小さな実践「はきものそろえ」の徹底から（学校経営指針説明）

(1) 小学校という発達段階で身に着けさせたい汎用的な力

人間関係形成 社会参画 自己実現

(2) 学校経営方針と学年経営ビジョン

各学年、ビジョンをもって教育活動を進めている。



#### 3 学級の力を土台とした学校づくり（取組紹介）

(1) はきものそろえからはじめる凡事徹底（全校共通実践）

○小さな実践「はきものそろえ」の思考、習慣から確実な変容（本物へ）そして、大きな成果へ

(2) 子どもが「願い」をもち、自分らしく表現し、具現化する教育活動を広げていく。

#### 4 情報、意見交換

(1) 徒歩登校

①体力の向上 ②「備え」の力

(2) 地域における礼儀とマナー

①あいさつの現状 ②大人の手本 ③その他

#### 5 終わりに

本校は「学級の力」を土台として教育活動を進めている。そして、この教育活動は「なすことによって学ぶ」という理念を柱としている。失敗の経験は子どもたちの宝物。経験が本物の笑顔につながっている。地域、家庭でも、この「失敗」もふくめて見守っていただきたい。

上記の概要で、「清水っ子を育てる会」を行いました。

学校評議員の皆様、地域の皆様ご多用の中、ご参加いただき誠にありがとうございました。